

広報 Koho Gallery
展示室

第32回

日本は17世紀初頭からはじめた鎖国政策により外国船を排除してきましたが、安政5年（1858）6月9日ペリー率いるアメリカ合衆国の船団によりその重たい扉は開かれました。はじめ日本とアメリカ間で「日米修好通商条約」が結ばれ、後に同様の条約はイギリス、フランス、オランダ、ロシアと行われました。日本は神奈川（横浜）、長崎、函館、新潟、兵庫（神戸）の5つの港を解放しました。その後幕府は倒れ、明治維新を迎えると外国から交易を求める商人や各国を代表する政府関係者がたくさん入ってきました。特に東京に近い横浜が西洋人たちの拠点の場となったため浮世絵師は西洋人の文化を描き評判を取りました。内容は西洋の建築（レンガ造り）、馬車、洋装、洋食、鉄道、蒸気船などでしたが、当時の日本人には初めて見る物ばかりでした。そのような作品を総称して「横浜絵」といい、他の浮世絵と区別しました。

図は、「亜墨利加蒸気船 長四十間巾六間」（大判三枚続 版元：丸屋甚八 制作：文久元年4月）。当時の大型船は風と蒸気を動力とし、船体の中央の左右に大きな水車を備えた船が多かったのですが、この帆船の長さは約72メートル、巾は11メートルと細長い船体に三本マストとスクリューを備えた最新の高速船のようです。マストの上にアメリカの国旗が掲げられています。この作品は江戸

—横浜開港150年記念—

明治の浮世絵 文明開化と横浜絵展



「亜墨利加蒸気船長四十間巾六間」川崎、砂子の里資料館蔵

幕府が横浜を開港してから3年後に制作され、それから6年後には明治維新を迎え、日本は新しい時代を迎えました。

この度の展覧会は、明治時代に活躍した浮世絵師たちが描いた「横浜絵」を中心に展示します。今から150年前の日本の風俗と西洋の文明を比較する、またとない機会です。その中には、今日でも通用しそうな物が再発見されるかも知れません。

那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 市川信也

【会 期】5月30日（金）～6月29日（日）

【ミュージアムトーク（展示解説）】

当館学芸員 6月7日（土）午後1時30分～

【開館時間】午前9時30分～午後5時まで

（ただし、入館は4時30分まで）

【休 館 日】6月2日、9日、16日、23日

【入 館 料】大 人 500円（450円）

高・大学生 300円（270円）

小・中学生 100円（90円）

※（ ）は20名以上の団体料金。小学生未満は無料。障害者手帳をお持ちの方・付き添い1名は半額。

ミニギャラリー
作品募集！

あなたの作品をここに展出してみませんか？

絵画、写真、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問合せ：企画財政課

☎0287-92-1114

入選「青空を泳ぐ」
渡部久恵さん（宇都宮市）



ミニ
ギャラリー

平成19年度
ばとうの観光写真
コンテスト受賞作品



入選「祭りの巡行」
江川清さん（宇都宮市）